

蝶ヶ岳縦走

日程:2007年12月29(土)~1月1(火)

メンバー:L 菊地、白土(記)

当初の計画を変更して蝶ヶ岳を縦走してきた。天気予報通り天気は悪く、稜線では風雪に打たれ、終始ラッセルし、冬山を堪能できた。

行程:

12/29(土)釜トンネル入口 6:00~8:30 上高地
~10:30 明神橋~12:30 徳沢~15:30 横尾

12/30(日)横尾 7:10~13:50 蝶ヶ岳ヒュッテ

12/31(月)蝶ヶ岳ヒュッテ 7:10~13:50 徳沢~
16:45 上高地

1/1(火)上高地 7:10~10:00 釜トンネル

1/25000 地形図:穂高岳、上高地、焼岳

12/29(土)

冬季無料開放されている沢渡駐車場にテントを前日に張って泊まる。ここに車を止め、事前に予約しておいたタクシーで中の湯へ向かう。釜トンネル入口では登山指導所が開設されており、入山表を提出してお茶と漬物をいただく。NHK 取材も受けた。身支度を整えてトンネルを歩き始める。電灯が灯っているのでヘッド灯はいらない。トンネルを出るとそこは雨だった。仕方がないが歩く。1年前にスキーで登ったが藪敗退した焼岳の斜面が林道から見える。そのときと同じように雪は少ない。上高地バスターミナルでは、途中で抜かれた NHK の車が待機していた。河童橋で待ち構えていた取材班にインタビューされた。天候悪化が予想されますが、なぜ山へ?世間の人たちはその様に思うのであろうか。河童橋を渡り右岸

の林道に行く。明神橋に着くころには晴れ間も見えてきた。擬似晴天か。徳沢園に着くと小屋番が出てきて、お昼のNHKニュースに河童橋でのインタビューが出ていましたよと報告を受ける。全国版だそう。以前はコタツにあたりながら見たあのシーンに自分が出ることになるとは…。遭難のニュースには出たくないものだ。ここからはトレースも消えかんじきでラッセルする。雨をたっぷり吸った雪がワカンにまとわり付き鉄ゲタ状態。水平移動なのにヘトヘトだ。今までいちばん横尾が遠くに感じた。横尾は手前の小屋が冬季開放されており、ホースから水も出ている。大変ありがたい。誰もいない。入って右側の小部屋にテントを張る。超快適だ。



河童橋でNHKの取材を受ける



横尾(右が冬季小屋)

夕方に2人組が到着し、明日から屏風岩を登るといふ。こんなに天気が悪いのに行く人がいるのかと感心してしまう。

12/30(日)

たっぷりぐっすり眠れたので体力回復。雪が降っている。今日もかんじきでラッセルだが、2日前に3人パーティーが歩いているというので、固い層がありたいぶ楽だ。樹林帯を夏道通りに登る。稜線直下で森林限界を越え、いよいよ風雪にさらされる。時折視界が広がり、ルートを見定める。風雪をやり過ごしながら稜線を歩くのはいかにも冬山らしくていい。もちろん限度はあるが……。風に負けじと気合が入る。しばらく歩くと小屋が見えた。冬季小屋入口は土管のような構造で、雪がたくさん入り込んでいる。しばらく人が来ていないようだ。突貫工事で通路を確保。中は広くてこれまた快適。窓に着いた雪を払って明るくなった。奥にはデポ品の一斗缶がいくつも積み上げられ、その奥にはトイレもある。外はいよいよ風が強くなってきた。小屋の中と外ではまったくの別世界だ。天気図をとってみてもやはりすごいことになっていた。昨日の二つ玉がひとつになり976hPaまで発達した。24時間後の予想でもまだ樺太に居座り、ほとんど停滞状態。移動性高気圧は来てくれそうにない。入山前は大滝山から霞沢岳への縦走も考えたが、このままの稜線歩きは厳しいものになるので、明日は長堀尾根で徳沢に下山することにする。夜も終始風が吹き荒れていた。



横尾の小屋内にテントを張る



蝶ヶ岳ヒュッテ



冬季小屋入口

12/31(月)

平和な小屋内で完全武装して外へ出る。相変わらず風が強いが視界があるので安心だ。蝶ヶ岳のピークで写真を撮る。尾根に進むとラッセルが深い。踏み跡はなくて腰までもぐる。下りはまだいいが水平になるととたんにスピードが落ちる。登りよりははるかに楽だが。樹林帯に入ると風もなくなり、ひたすらラッセル。丈の低い藪エリアがやっかいで、見えない落とし穴にはまり脱出するのに一苦労である。二人いるからいいものの、ひとりで穴にはまったら脱出できなかつたらかなり危険だ。GPSを見ながら最短ルートで下る。途中から夏道に入り、どんどん下る。結局徳沢園まで誰にも会わなかった。徳沢園では前穂北尾根から敗退してきたパーティーにも会った。この天気では皆敗退だ。屏風パーティーはどうしているだろうか。冬季小屋2泊して快適な夜を過ごした我々には雪の降る中でテントを張る気も起きず、上高地バスターミナルの屋根付きエリアを目指す。そこはすでにたくさんのテントが設営され、年越しをくつろいでいるように見えた。我々もテントを張り、ラジオで紅白を聞きながら大晦日の夜を過ごした。



蝶ヶ岳山頂



上高地からの下山もラッセル



長堀尾根のラッセル

1/1(火)

中の湯発のバス時刻から逆算して出発するが、のっけからラッセル。今日は高速道路のつもりだったが予想外の展開。ほかの人は寝正月か。50cm くらい積っている。途中から大正池ホテルから来た人たちとすれ違う。やっとラッセルから開放されたと思うのも束の間。大正池ホテルからの下山組のラッセルに追いついてしまった。ここからは菊地さんがひとりでラッセルマシンと化し、釜トンネルに到着。冬合宿終了。握手を交わす。これで遭難ニュースには出ずに済んだ。しかしまだ終わらなかった。中の湯でバスを待つが、バスが来ない。電話で問い合わせてみると平湯で立ち往生している車に足止めをくらっているという。結局雪の降る中その次のバスまで 1 時間半待った。最後には車の雪かきが待っていた。

当初の計画は槍ヶ岳の北鎌尾根であった。冬の北鎌に向けての計画的なトレーニング山行、ポカトレ、近所のジョギング、仕事後のクライミングジム、そして渡渉対策、装備の軽量化、行動食の少量化。自分にやれることは全てやった。モチベーションも体力も自分なりに高めることはできた。しかし天気にはかなわない。今回は縦走であったが、冬の北アルプスの厳しさを味わうことはできた。この経験を生かし、来シーズンに再度チャレンジしたい。



釜トンネルに到着



中の湯バス停でバスを待つ



最後に車の雪かきが待っていた